



■ 1. はじめに

私は入社25年目を迎えますが、入社当時から比べると社会環境や会社内の作業環境など大きく変化してきたので振り返ってみたいと思います。

入社当時はパソコン（PC）が普及しはじめ、私の入社時はモノクロのノートPC【写真-1】が支給されました。ノートPCといっても報告書作成に用いるワープロソフト（一太郎のVer.4、当時はヨンたろうと呼んでました）と表計算ソフト（Lotus123Ver.2.4J）の時代でした。

この時代のOSはMS-DOSで、Windowsが一般的に広まる直前（Windowsも存在しましたがVer.3.1）でした。

ちなみに、私が入社する前は報告書が手書きや印刷屋さんへの入稿という時代でしたので、過去の資料を引用する場合は、PC（ワープロソフト）入力作業が必須でした。

さらに、図面作成もCADが普及していないため、ドラフターに向かい0.3~0.7mmのシャープペンと字消し板を駆使して図面を手書きしていた時



写真-1 入社当時のPC

代でした。

その後、Windows95の登場によりインターネットが急速に発達し、ネット環境が当然の時代となりE-mailの普及や携帯電話の普及など今では当たりまえのツールが次々登場してきました。

入社当時は図面を手書きし、着色も手作業、今思えばかなりの労力を単純作業につぎ込んでおりました。現在ではCADやグラフィックツールの普及により、図面着色や加工等の単純作業の省力化がかなり進みました。

■ 2. 私の生活

会社の作業環境は大きく変化してきておりますが、私自身の生活スタイルは大きく変化していないように思います。このため、私の生活スタイルを構成している“仕事”“出張”“余暇”についてご紹介したいと思います。

2.1 仕事

札幌に始まり地元仙台へ

仙台出身の私が入社した赴任先は札幌でした。

そもそも北海道に縁もゆかりも無い私には、ものすごく不安を感じたのを覚えております。

しかし、北海道の人たちは内地から開拓を目的とした移民が多く、知らない人を受け入れる事に慣れており、私の不安など直ぐに払拭され暖かく接して頂きました。

北海道の次に地元仙台に赴任となりました。

地元が仙台市内ということあり、仕事を通じて同級生・先輩・後輩、非常に多くの出会いがあり、人の繋がりの大切さを感じております。さらに、

人の繋がりによりプライベートも充実し故郷や仲間
に感謝する毎日です。

そして、東日本大震災は地元で被災したからこ
そ、地元の仲間と一緒に“復興の力になりたい”と
いう思いで頑張ることができたのだと思います。

2.2 出張

仕事に欠かせない“出張”、出張に行くには準備
が必要だ。準備して大変な思いをする以上楽しみ
も必要だ。ということでいつの間にか“出張＝美
味しいものを食べたい”という方程式となり、私
は“食を楽しむために働く”ようになりました。

美味しい店を探すのは情報誌やネットの口コミ
サイトにお任せするとして、私の思い出深い店を
紹介させていただきます。

◆北海道編

【札幌：カレーハウスコロソ】札幌駅前の老舗カ
レー店で入社当初から残業夜食として食べる機会
が多く、1週間に2～3回は食べておりました。
特徴なのはルーのおかわりが無料で、ルーが少な
くなってくると率先して店員さんが声掛けしてく
れたのを思い出します。

【札幌：純連（すみれ）】札幌の味噌ラーメンを十
分に堪能し数ヶ月が過ぎた頃、この味噌ラーメン
に出会いました。スープの表面がラードでコーテ
ィングされ、湯気が殆どあがらないのですが麺を
すくった瞬間一気に熱々の湯気と味噌の風味が立
ち昇り、舌が火傷する斬新さに驚いた一品でした。



写真-2 思い出のカレー

◆東北編

【天童：水車生そば】山形＝蕎麦の認識が強かった
ので、私は迷わず板そばを注文。蕎麦は田舎打ち
でコシが強いワシワシの食感と濃い目のタレがと

ても良かったのですが、蕎麦屋にも関わらず多く
のお客さんが鳥中華を注文しているのが気にな
り、再来店時に鳥中華を注文、蕎麦屋の出汁で作
るラーメンの美味しさを知りました。



写真-3 水車生そばの鳥中華

【青森：店舗名不明】東日本大震災の10日後に納
品に向かった青森で食べたモツ鍋が忘れられませ
ん。当時の仙台市内はコンビニすら満足に営業し
ていない状態で、新幹線も不通のため高速バスで
5時間かけて青森へ移動、もちろん日帰りできず
にホテル宿泊となった事で久しぶり（震災後初）
に入浴することができました、ホテルの近くの居
酒屋で風呂上がりのビールとモツ鍋が非常に美味
しかったのを思い出します。非常体制の仙台にい
たからこそ、日常のありがたみが骨身に沁みまし
た。

2.3 余暇

週末のイベントの大半は、子供たちの部活送迎
となっております。中学校の部活になると毎週
のように県内各地の中学校やグラウンド（体育館）
で練習試合が組まれているため、現地まで送り届
けた後は、そのまま部活の応援を行っております。

私が子供の頃、親が部活に関与することは皆無
でしたが、今では保護者の参加無しでは成り立た
ない時代なのだと痛感させられます。

このような部活送迎も、子供たちの成長を目の
あたりにする機会を貰っていると思えば、非常に
楽しみでもあります。子供たちも大きくなってお
り、あと少しだけこの贅沢な時間を満喫しようと
思っております。



写真－4 子供たちの部活応援

■3. おわりに

“食を楽しむために働く”と言いながら、美味しいものを探して食べ歩いているため、不摂生により最近では健康診断の要所見箇所が増え、健康指導を受ける事になってしまいました。

このため、最近では少し健康に気を付けなければならないと思い、身体を健やかにしようと、万歩計持参で歩く機会を増やすようになりました。さらに、週に一度は広瀬川へ行きジョギングをするようにしています。とはいっても本格的に走れる

わけではないので、多くのランナーに抜かされながらマイペースにのんびりと水面を堪能する程度でジョギングに励んでおります。

最近では“少子高齢化による労働人口の減少”に端を発し、1億総活躍社会など様々なフレーズが出てきております。一方で、BIGデータ活用やAIの普及等さらに働く環境は大きく変化を求められていくと思います。これからも健康で、プライベートを充実させながら、仕事を楽しいきたいと思います。



写真－5 ジョギング中の風景・広瀬川